

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 2018年3月1日  
(第55期) 至 2019年2月28日

**ポイント産業株式会社**

東京都新宿区西新宿六丁目25番13号

(E01706)

---

# 有価証券報告書

---

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

## 第55期 有価証券報告書

### 【表紙】

第一部 【企業情報】	1
第1 【企業の概況】	1
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【沿革】	3
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	6
5 【従業員の状況】	7
第2 【事業の状況】	8
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	8
2 【事業等のリスク】	9
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	11
4 【経営上の重要な契約等】	15
5 【研究開発活動】	16
第3 【設備の状況】	17
1 【設備投資等の概要】	17
2 【主要な設備の状況】	17
3 【設備の新設、除却等の計画】	18
第4 【提出会社の状況】	19
1 【株式等の状況】	19
(1) 【株式の総数等】	19
(2) 【新株予約権等の状況】	19
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	19
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	20
(5) 【所有者別状況】	20
(6) 【大株主の状況】	21
(7) 【議決権の状況】	22
2 【自己株式の取得等の状況】	23
3 【配当政策】	24
4 【株価の推移】	24
5 【役員の状況】	25
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	27
(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】	27
(2) 【監査報酬の内容等】	33

第5 【経理の状況】	34
1 【連結財務諸表等】	35
(1) 【連結財務諸表】	35
(2) 【その他】	70
2 【財務諸表等】	71
(1) 【財務諸表】	71
(2) 【主な資産及び負債の内容】	81
(3) 【その他】	81
第6 【提出会社の株式事務の概要】	82
第7 【提出会社の参考情報】	83
1 【提出会社の親会社等の情報】	83
2 【その他の参考情報】	83
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	84

監査報告書

内部統制報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2019年5月31日

**【事業年度】** 第55期(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

**【会社名】** フロイント産業株式会社

**【英訳名】** Freund Corporation

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 伏島 巖

**【本店の所在の場所】** 東京都新宿区西新宿六丁目25番13号

**【電話番号】** 03(6890)0750(代表)

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役管理本部長 白鳥 則生

**【最寄りの連絡場所】** 東京都新宿区西新宿六丁目25番13号

**【電話番号】** 03(6890)0750(代表)

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役管理本部長 白鳥 則生

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	2015年2月	2016年2月	2017年2月	2018年2月	2019年2月
売上高 (千円)	17,424,279	19,027,633	21,164,542	19,801,447	18,408,237
経常利益 (千円)	1,249,542	1,394,653	2,097,799	1,994,022	1,326,340
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	695,966	961,129	1,064,266	1,477,671	843,575
包括利益 (千円)	1,020,148	798,833	937,871	1,401,747	925,328
純資産額 (千円)	11,180,239	11,529,183	12,185,358	13,242,215	13,250,651
総資産額 (千円)	17,277,448	17,206,653	19,101,540	19,125,548	17,465,307
1株当たり純資産額 (円)	637.19	668.57	706.62	767.91	791.34
1株当たり 当期純利益金額 (円)	40.36	55.74	61.72	85.69	50.15
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	63.60	67.00	63.79	69.24	75.87
自己資本利益率 (%)	6.56	8.54	8.98	11.62	6.37
株価収益率 (倍)	15.36	18.16	24.24	11.64	17.53
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	822,746	290,190	3,605,533	594,047	435,898
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△240,261	△432,751	△351,682	△493,399	△566,329
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△284,565	△331,618	△277,678	△499,086	△921,721
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	4,548,178	4,042,296	6,982,822	6,568,050	5,534,431
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕 (人)	343 〔27〕	344 〔38〕	342 〔48〕	360 〔51〕	372 〔53〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため、記載しておりません。

3. 当社は、2016年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。そのため、第51期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	2015年2月	2016年2月	2017年2月	2018年2月	2019年2月
売上高 (千円)	13,364,611	13,741,395	15,696,371	14,282,294	13,114,960
経常利益 (千円)	1,338,739	1,289,823	1,752,919	1,945,915	1,290,395
当期純利益 (千円)	615,448	700,833	852,930	1,501,342	907,308
資本金 (千円)	1,035,600	1,035,600	1,035,600	1,035,600	1,035,600
発行済株式総数 (株)	9,200,000	9,200,000	18,400,000	18,400,000	18,400,000
純資産額 (千円)	10,285,360	10,707,159	11,361,026	12,535,469	12,510,212
総資産額 (千円)	15,218,604	15,539,054	16,948,238	17,407,551	15,581,641
1株当たり純資産額 (円)	596.44	620.90	658.82	726.92	747.12
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	30.00 (—)	25.00 (—)	20.00 (—)	20.0 (—)	20.0 (—)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	35.69	40.64	49.46	87.06	53.94
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	67.6	68.9	67.0	72.0	80.3
自己資本利益率 (%)	6.11	6.68	7.73	12.57	7.25
株価収益率 (倍)	17.37	24.90	30.25	11.45	16.30
配当性向 (%)	42.0	30.8	40.4	23.0	37.08
従業員数 [外、平均臨時 雇用者数] (人)	184 [23]	189 [32]	189 [39]	197 [39]	208 [39]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため、記載しておりません。

3. 第51期の1株当たり配当額30円は、創立50周年記念配当5円を含んでおります。

4. 第53期の1株当たり配当額20円は、上場20周年記念配当5円を含んでおります。

5. 当社は、2016年3月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。そのため、第51期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。なお、1株当たり配当額については、当該株式分割前の実際の配当額の金額を記載しております。

## 2 【沿革】

年月	事項
1964年4月	医薬品用「自動フィルムコーティング装置」及びその装置に使用する「フィルムコーティング液（胃溶性・腸溶性）」を開発し、東京都千代田区神田司町に資本金100万円でフロイント産業株式会社を創立。
1966年12月	神奈川県足柄上郡大井町に小田原工場を設置。
1969年5月	流動層造粒コーティング装置「フローコーター」を開発し、販売を開始。
1969年7月	大阪営業所を大阪府大阪市福島区海老江中に開設。
1970年5月	乾式造粒機「ローラーコンパクター」を開発し、販売を開始。
1971年6月	減圧通気式自動コーティング装置「ハイコーター」を開発し、販売を開始。
1972年10月	本社を東京都新宿区戸塚町（現・新宿区高田馬場）に移転。
1975年6月	医薬品添加剤の乳糖顆粒「ダイラクトーズ」を開発し、販売を開始。
1976年5月	遠心流動型コーティング造粒装置「CFグラニューレーター」を開発し、販売を開始。
1978年3月	食品品質保持剤「アンチモールド-102」を開発し、販売を開始。
1978年8月	埼玉県坂戸市千代田に技術開発研究所を建設し、小田原工場を移転。
1979年8月	VECTOR CORPORATIONに「ハイコーター」の特許を許諾し、技術供与契約を締結。
1980年2月	フロイント化成㈱を埼玉県浦和市（現・さいたま市）沼影に設立し、食品品質保持剤「アンチモールド-102」の製造を開始。
1980年3月	㈱大川原製作所と「フローコーター」に関する業務提携契約を締結。
1980年5月	Gebruder Lodige Maschinenbau GmbH（ドイツ）と「ハイコーター」の特許、技術供与契約を締結。
1981年1月	医薬品添加剤の球形顆粒「ノンパレル-101」を開発し、販売を開始。
1982年1月	複合型流動層造粒コーティング装置「スパイラフロー」を開発し、販売を開始。
1982年3月	医薬品添加剤の球形顆粒「ノンパレル-103」を開発し、販売を開始。
1983年5月	大阪営業所を大阪府吹田市市広芝町へ移転し、大阪事業所に名称変更。
1986年3月	埼玉県東松山市新郷に東松山工場を設置。医薬品添加剤「ダイラクトーズ」「ノンパレル」の製造を開始。
1987年9月	多機能型品質保持剤「ネガモールド」を開発し、販売を開始。
1988年11月	水系専用コーティング装置「アクアコーター」を開発し、販売を開始。
1991年4月	医薬・食品用シームレスミニカプセル装置「スフレックス」を開発し、販売を開始。
1991年5月	医薬品添加剤の球形顆粒「ノンパレル-105」を開発。
1992年4月	静岡県浜松市都田町都田テクノポリスに浜松事業所・技術開発研究所を新設、埼玉県坂戸市千代田の技術開発研究所を移転。
1993年3月	DMV International, division of compina melkunie bv（オランダ）に乳糖顆粒「ダイラクトーズ」の製造ノウハウを開示し、技術供与契約を締結。
1994年4月	静岡県浜松市新都田の当社浜松事業所内に浜松工場を設置し、東松山工場を移転。
1995年3月	医薬品添加剤の球形顆粒「ノンパレル-107」を開発。
1996年2月	食品用コーティング基剤「ヘミロース」を開発。
1996年7月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
1997年12月	VECTOR CORPORATION（米国、現・連結子会社）の持株会社DANFORTH AGRI-RESOURCES, INC.（米国）[1998年3月FREUND INTERNATIONAL, LTD. に社名変更]を買収。
1998年6月	静岡県浜松市新都田の当社浜松事業所内に新製剤棟を設置。
2000年3月	ISO-9001の認証を取得。
2000年4月	遠心転動造粒コーティング装置「グラニューレックス」を開発し、販売を開始。
2001年3月	VPS CORPORATION（米国）を設立し、治験薬製造受託事業を開始。
2002年9月	エタノール蒸散持続型食品品質保持剤（アンチモールド・テンダー）を開発し、販売を開始。
2003年9月	食品用コーティング基材「水性シェラック液」を開発。
2003年12月	直打用澱粉「パーフィラー-102」を開発。



年月	事項
2004年1月	本社を東京都新宿区西新宿に移転。
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
2005年10月	アンチモールド自動検知器「Antimold detector」を開発し、販売を開始。
2006年5月	医薬品添加剤の球形顆粒「ノンパレルー108」を開発し、販売を開始。
2006年11月	食品・健康食品用全自動コーティング装置「ハイコーターFPC」を開発し、販売を開始。
2007年10月	名古屋営業所を愛知県名古屋市西区那古野に開設。
2007年12月	VPS CORPORATION株式の一部をシミック㈱に売却し、連結の範囲から除外。
2008年4月	キットサンコーティング技術を開発。
2008年10月	新型錠剤コーティング装置「ハイコーター-FZ」を開発。
2009年4月	水分活性測定器「EZ-100ST」を開発、販売。
2009年7月	流動層造粒コーティング装置「フローコーターユニバーサル」を開発。
2010年1月	FREUND PHARMATEC LTD. をアイルランド共和国に設立。
2010年4月	大阪事業所を吹田市より同市内へ移転。 ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所との合併。
2010年5月	高速攪拌造粒機「グラニューマイスト」を開発。
2010年6月	ターボ工業㈱を買収。連結子会社となる。
2010年7月	本社を東京都新宿区大久保に移転。
2010年8月	名古屋営業所を愛知県名古屋市西区名駅へ移転。
2010年10月	ターボ工業㈱をフロイント・ターボ㈱に社名変更。 大証JASDAQ市場へラクレスNEOの市場統合。
2010年12月	湿式・乾式整粒機「ミルマイスト」を開発し、販売開始。
2011年10月	大腸崩壊性基剤「キットコート」の販売開始。
2012年1月	VECTOR CORPORATIONをFREUND-VECTOR CORPORATIONに社名変更。
2012年5月	食品品質保持剤「ネガモールドナチュラル」、「ネガモールドライト」を開発、販売。
2013年5月	耐圧性流動層造粒乾燥装置「フローコーター(12bar)」を開発・販売。
2013年7月	錠剤印刷装置「TABREX」を販売。 直打用添加剤「マルチツールグラニュー」、「イソマルトグラニュー」の開発・販売。
2013年10月	口腔内崩壊錠用の直打用賦形剤「SmartEX」を開発。
2014年3月	フロイント化成(株)を吸収合併。
2014年4月	創立50周年記念の記念講演会を開催し、併せて「50年史」を発刊。
2014年5月	連続造粒乾燥機「Granuformer」concept modelを開発
2014年10月	口腔内崩壊錠用直打用賦形剤「グラニューツール F(ファイン)」を販売開始。
2015年1月	FREUND-VECTOR CORPORATIONがFREUND INTERNATIONAL, LTD. を吸収合併。
2015年10月	製剤用球形粒「ノンパレルー105(150)」を販売開始。
2016年2月	FREUND PHARMATEC LTD. の全株式をSigmoid Pharma Ltd. へ譲渡し、連結の範囲から除外。
2016年6月	本社を東京都新宿区西新宿に移転。
2016年9月	錠剤印刷装置「TABREX Rev.」を販売開始。
2016年10月	水分活性測定器「EZ-200」を開発、販売。
2017年3月	DFE Pharma(ドイツ)と造粒乳糖「ダイラクトーズ」の製造委託契約を締結。
2018年1月	フロイント・ターボ㈱がアキラ機工㈱を吸収合併。
2018年6月	連続造粒乾燥機「Granuformer」を販売開始。
2019年3月	合弁会社Parle Freund Machinery Private Limited. をインド共和国に設立。

### 3 【事業の内容】

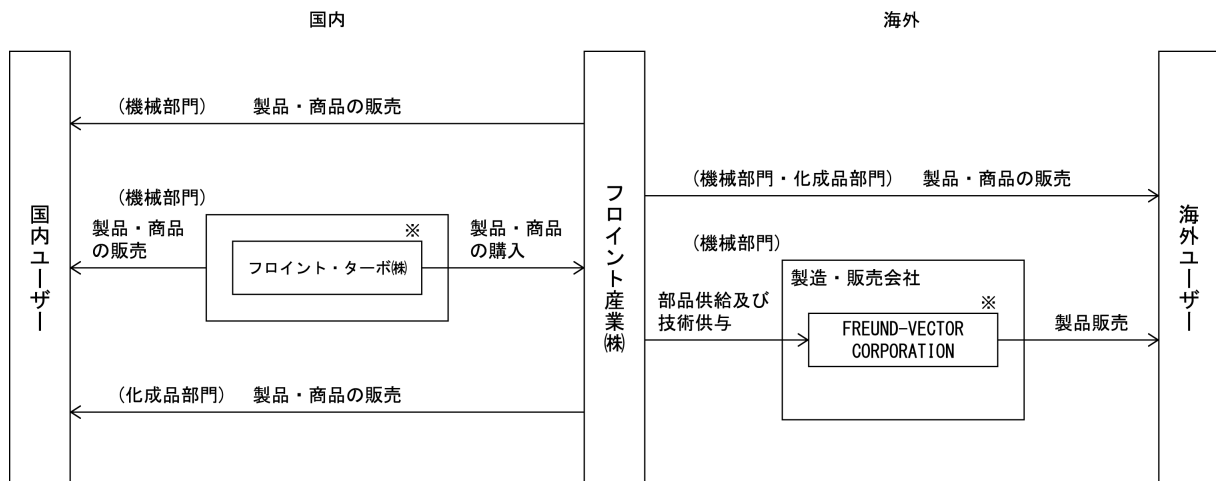
当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、フロイント産業株式会社(当社)及び子会社2社(うち、連結子会社2社)により構成されており、事業は機械装置、化成品の製造販売を行っております。

事業内容と当社及び子会社の当該活動にかかる位置付けは、次のとおりであります。

なお、当社グループが営んでいる事業内容と、セグメントにおける事業区分は同一であります。

区分	主要製品	主要な会社	
機械部門	粉粒体機械装置 粉粒体機械のプラント工事 計器・部品 合成樹脂の微粉碎受託	製造・販売	当社 FREUND-VECTOR CORPORATION フロイント・ターボ(株)
化成品部門	医薬品添加剤、栄養補助食品	製造・販売	当社
	食品品質保持剤	製造・販売	当社
	製薬・食品・化学等の開発研究、 処方検討等の受託	受託	当社

以上の企業グループ等について図示すると次のとおりであります。



(注) ※…連結子会社であります。

#### 4 【関係会社の状況】

##### (1) 連結子会社

名称	住所	資本金	事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容			
					役員の兼任等		資金の貸付 (百万円)	営業上の取引
					当社役員 (名)	当社 従業員 (名)		
フロイント・ターボ機	神奈川県 横須賀市内川	千円 42,000	粉粒体機械装置 の開発、設計及 び製造販売	100.00	3	2	—	部品等の販売 技術提携
FREUND-VECTOR CORPORATION (注) 1、2	米国	千米ドル 15,066	粉粒体機械装置 の開発、設計及 び製造販売	100.00	2	4	221	部品等の販売 技術提携

(注) 1. FREUND-VECTOR CORPORATIONは、特定子会社に該当しております。

2. FREUND-VECTOR CORPORATIONについては、売上高(連結会社間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が100分の10を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	4,122,369千円
	(2) 経常利益	96,447千円
	(3) 当期純利益	99,362千円
	(4) 純資産額	2,341,001千円
	(5) 総資産額	3,563,030千円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2019年2月28日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
機械部門	254(27)
化成品部門	79(22)
全社(共通)	39(4)
合計	372(53)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は年間の平均を( )外数で記載しております。  
 2. 全社(共通)として記載している従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

2019年2月28日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
208(39)	44.3	11.7	6,019,582

セグメントの名称	従業員数(人)
機械部門	90(13)
化成品部門	79(22)
全社(共通)	39(4)
合計	208(39)

- (注) 1. 平均年間給与は、税込支払給与額であり、基準外給与及び賞与を含んでおります。  
 2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均を( )外数で記載しております。  
 3. 全社(共通)として記載している従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は、結成されておりませんが、労使関係は良好に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末（2019年2月28日現在）において、当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、造粒・コーティング技術をキーテクノロジーとして、独創的な機械装置（ハード）と製剤技術（ソフト）を一体化した技術開発力を駆使し、研究開発に専念しております。

その企業理念として『創造力で未来を拓く（登録商標）』のもと、つぎの“5つの創造”を掲げております。

- ① 独創性豊かな製品の創造
- ② 先見力で新しい市場ニーズの創造
- ③ 組織を活性化する経営基盤の創造
- ④ 困難に立ち向かうチャレンジ精神の創造
- ⑤ 潤いのある人間関係の創造

経営ビジョンとして『世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します』を掲げ、創造力とチャレンジ精神をもって事業展開を図り、健全な成長と一層強固な経営基盤を構築し、社員、お客さまはじめ全てのステークホルダーとの円滑な関係を維持するとともに、社会への貢献を図ってまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、より収益力の高い企業集団を目指し、計画した営業利益の達成を最優先すべき経営目標として掲げております。

そのためには、売上を伸ばしつつ、収益性に配慮し、連結営業利益率10%以上、連結自己資本利益率(ROE)も当面は8%へ回復し、中期的には10%以上を目指します。

社員一人ひとりが自ら考え行動する風土改革に取り組んでおり、効率性・生産性の向上を図り、一人当たり営業利益の増加を図ってまいります。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

当社グループは、上記の経営の基本方針に基づき、第7次中期経営計画（2018年2月期～2022年2月期）では、グループが共有する価値『ONE FREUND』（Number one、Only one、Be one）のもとで、お客さまの真のニーズに技術力を持って応える“研究開発型企業”の立ち位置をより鮮明にし、持続的に利益成長する経営構造の実現を目指します。

中期経営計画最終年度（2022年2月期）の経営目標として、以下を掲げています。

- ① 機械・化成品事業のさらなる収益力の向上
- ② 新製品の開発
- ③ 第3の柱となるサービス事業の基盤確立
- ④ 業務プロセス改革と風土改革を通して人材育成

## 2 【事業等のリスク】

当社グループの事業は、下記に記載する様々なリスクに晒されており、リスクの顕在化により予期せぬ業績の変動を被る可能性があります。これらのリスク発生の可能性を認識した上で、可能なかぎり発生の防止に努め、また、発生した場合は迅速・的確に対処する方針です。ただし、全てのリスクを網羅している訳ではありません。

なお、本項に含まれる将来に関する事項は、当連結会計年度末時点において判断したものです。

### (1) 業界動向に関わるリスク

当連結会計年度における売上高のうち、製薬業界向け取引高が過半を占めております。

製薬業界は国内・海外とも再編成時代を迎えており、また、医療費抑制に向けた各国の政策等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 価格競争に関わるリスク

機械事業については、競合企業の低価格攻勢やエンジニアリング会社の参入、中国・東南アジア製の安価な製品との競合などにより、厳しい価格競争に晒されるリスクが増大しています。当社グループは利益率の低下に対処すべく、原価低減などに取り組んでおりますが、予想外の価格競争になった場合は、業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 取引先との関係等に関わるリスク

国内の機械事業については、その製造部門を特定の業務提携先に大きく依存しております。また、化成品事業のうち、医薬品添加剤及び食品品質保持剤については、見込生産を行っているため、業務提携先の生産能力や技術力、経営状態や主要販売先の需要動向の著しい変化により、業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 戦略的パートナーとの提携関係に関わるリスク

当社グループは、新技術・新製品の開発、並びに既存製品の改善・改良などに関して数多くの戦略的提携関係を構築しておりますが、これらパートナーの戦略上の目標変更や財務上その他の事業上の問題の発生などにより、提携関係を維持することができなくなる可能性があります。業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (5) 知的財産権に関わるリスク

研究開発型企業を標榜する当社グループは、知的財産管理の専門部署を設置し、特許権を含む知的財産権を厳しく管理しておりますが、国内外で事業を展開するため、事業上の競合者等から知的財産権に関わる侵害を被る可能性があります。万一、侵害を受けた場合は、期待される収益が失われる可能性があります。また、当社グループの自社製品等が第三者の知的財産権を侵害した場合、係争に発展し、業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (6) 製造物責任に関わるリスク

当社グループが提供する製品およびサービスには高い信頼性が求められておりますが、欠陥が生じるリスクがあります。製造物にかかる賠償責任については製造物賠償責任保険に加入しておりますが、保険でカバーされないリスクや社会的評価の低下により、当社グループへの信頼が損なわれ、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 公的規制等に関わるリスク

当社グループが事業展開している世界各地において、事業に関わる許認可、輸出入に関する制限や規制など様々な公的規制を受けております。また、通商、公正取引、特許、消費者保護、租税、為替管理、環境関連などの法規制の適用もを受けており、これらは随時見直されております。各種規制の動向には十分注視しておりますが、遵守できなかった場合、当社グループの活動が制限を受けたり、制裁金などが課される可能性があるなど、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 人材の確保に関わるリスク

当社グループは、新製品を開発し、或いは上市した製品を販売するために有能な人材を確保し、雇用を維持する必要があります。そのために、当社グループは技術系大卒者を中心に定期採用を実施し、採用後の社員教育研修制度などにより人材の確保、育成に努めております。万一、優秀な技術者や高い実績を挙げられる営業員を確保できない事態や、雇用の維持ができなくなった場合、当社グループの事業目的の達成が困難となり、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 為替変動に関わるリスク

当社グループは、為替リスクを軽減し、または回避するために様々な対策を講じておりますが、事業の国際化にともない海外売上高は年々増加しており、急激な為替レートの変動は、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、海外連結子会社の現地通貨建ての損益及び資産・負債等は、連結財務諸表作成のために円換算されるため、換算時の為替レートにより、円換算後の価値に影響を受ける可能性があります。

(10) 自然災害等に関わるリスク

地震等の自然災害によって、当社グループの製造拠点および設備等が破壊的な損害を被る可能性があります。火災はもとより、地震により発生する損害に対しては地震保険を付保しているものの、その補償範囲は限定されており、操業の中断、生産および出荷が遅延し売上高は減少し、さらに、製造拠点等の修復に巨額の費用を要することにより、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 固定資産の減損リスク

当社グループが保有する固定資産について、経営環境の著しい悪化により、事業の収益性が低下した場合や、市場価格が著しく下落した場合等には、固定資産の減損会計の適用による減損損失が発生し、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 海外における事業活動に潜在するリスク

当社グループの事業活動は、米国をはじめ欧州などにも展開しております。これらの海外市場への進出には、①予期しえない法律や規制、不利な影響を及ぼす租税制度上の変更②不利な政治的または経済的要因の発生③人材の雇用の難しさ④テロ、戦争、感染症疾病その他の要因による社会的混乱⑤事業環境や競合状況の変化等の内在するリスクが顕在化する可能性があります。それらのリスクにより、当社グループが海外において不測にも事業展開できない場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### ① 経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業収益・雇用・所得環境を背景に、緩やかな回復基調が続きましたが、足元では中国向けを中心とした輸出や生産の落ち込みが製造業の企業収益を下押しする動きも見られています。

当社グループの主要ユーザーであります医薬品業界は、薬価改定やジェネリック医薬品使用促進などの医療費抑制策の強化や、研究開発費の高騰と開発リスクの増大などへの対応を迫られております。

また、世界経済は、米国の保護主義的な通商政策により中国との緊張感が続いており、欧州では英国のEU離脱を巡り、予断を許さない状況に陥っています。

こうした情勢のもと、当社グループは、第7次中期経営計画(2018年2月期～2022年2月期)の後半の飛躍期に備えるべく、成長基盤構築に取り組んでおります。

当期(2018年3月1日～2019年2月28日)の具体的な課題として、

- ①米国・アジアでの事業強化(機械装置・化成品両面)で、より積極的な海外展開
- ②市場ニーズの強い新製品(連続造粒システム・錠剤印刷機)の本格的な業績への寄与
- ③リチウムイオン電池など新素材に関わる産業用機械ビジネスへの進出
- ④オープンイノベーションをベースとした産学との連携強化
- ⑤技術交流などを通じた人財育成

などに取り組み、将来の業容拡大に向けた経営基盤を整備してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高184億8百万円(前年同期比7.0%減)、営業利益12億23百万円(同37.9%減)、経常利益13億26百万円(同33.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益8億43百万円(同42.9%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

##### ・機械部門

造粒・コーティング装置を主力とする機械部門においては、積極的な営業活動を展開してまいりましたが、新製品となる連続造粒システムの売上計上が期ズレとなり、更に錠剤印刷機は更なる改善改良を余儀なくされ、売上高、営業利益ともに減少となりました。

米国子会社FREUND-VECTOR CORPORATIONは、低採算の大型案件や、将来の業容拡大に向けた体制整備など、固定費負担増加の影響などにより、売上高、営業利益ともに減少となりました。

また、粉砕装置を主力とするフロイント・ターボ株式会社は、積極的な営業展開により売上高は増加しましたが、製品開発に関わる先行投資とのれんの償却などの経費負担増により、営業利益は減少となりました。また、中国市場などの停滞により、前期に吸収合併した旧アキラ機工株式会社の事業については減損処理いたしました。

この結果、売上高は123億68百万円(同14.1%減)、セグメント利益は7億37百万円(同54.8%減)となりました。

##### ・化成品部門

医薬品の経口剤に使用される医薬品添加剤は、国内での大幅な需要増加と、積極的な海外進出により、売上高、営業利益ともに増加となりました。特に、自社生産している医薬品添加剤は、稼働力アップによる収益力向上と、海外では高付加価値製品を拡販することができました。

また、食品品質保持剤は、海外市場の開拓にも取り組むなど積極的な営業展開を図り、売上高は増加となりましたが、営業利益は横這いとなりました。

この結果、売上高は60億40百万円(同11.9%増)、セグメント利益は10億24百万円(同27.9%増)となりました。



## ② 財政状態の分析

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ16億60百万円減少し、174億65百万円となりました。増減の主な要因は、商品及び製品が1億51百万円、原材料及び貯蔵品が1億31百万円増加したものの、現金及び預金が10億33百万円、仕掛品が9億92百万円減少したことによるものであります。

また、当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ16億68百万円減少し、42億14百万円となりました。この主な要因は、前受金が8億31百万円、支払手形及び買掛金が3億44百万円、電子記録債務が3億9百万円、未払法人税等が2億4百万円減少したことによるものであります。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ8百万円増加し、132億50百万円となりました。増減の主な要因は、利益剰余金が4億98百万円増加したものの、自己株式の取得により5億72百万円減少したことによるものであります。

## ③ キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比べ10億33百万円減少(前年同期は4億14百万円の減少)し、当連結会計年度末には55億34百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、4億35百万円(前年同期は5億94百万円の増加)となりました。これは主に、法人税等の支払額6億10百万円や仕入債務の減少7億円、前受金の減少8億43百万円等の減少要因があったものの、税金等調整前当期純利益の計上12億55百万円、減価償却費の計上3億44百万円、売上債権の減少1億38百万円、たな卸資産の減少6億15百万円等の増加要因によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、5億66百万円(前年同期は4億93百万円の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出5億69百万円によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果減少した資金は、9億21百万円(前年同期は4億99百万円の減少)となりました。これは主に、配当金の支払額3億43百万円、自己株式取得による支出5億72百万円によるものであります。

④ 生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	前年同期比(%)
機械部門(千円)	12,487,490	84.3
化成品部門(千円)	5,346,751	99.4
合計(千円)	17,834,242	88.3

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	前年同期比(%)
化成品部門(千円)	669,662	108.9
合計(千円)	669,662	108.9

(注) 1. 金額は仕入価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
機械部門	11,839,221	102.8	5,428,628	93.2
化成品部門	735,777	119.5	126,632	150.5
合計	12,574,998	103.7	5,555,261	94.0

(注) 1. 化成品部門のうち医薬品添加剤と食品品質保持剤は、販売計画に基づいた見込生産によっておりますので記載を省略しております。  
2. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引は相殺消去しております。  
3. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

d. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	前年同期比(%)
機械部門(千円)	12,368,175	85.9
化成品部門(千円)	6,040,062	111.9
合計(千円)	18,408,237	93.0

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引は相殺消去しております。  
2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

① 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成において採用している重要な会計方針は、「第5 経理の状況」の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

また、連結財務諸表の作成にあたって、会計上の見積りを必要とする繰延税金資産、貸倒引当金、たな卸資産の評価、固定資産の減損、退職給付に係る会計処理などについては、過去の実績や当該事象の状況を勘案して、合理的と考えられる方法に基づき見積りおよび判断をしております。ただし、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析につきましては「(1) 経営成績等の状況の概要」に記載しております。

b. 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因につきましては「2 事業等のリスク」に記載しております。

c. 資本の財源及び資金の流動性の分析

当社グループは、健全な財政状態の維持と流動性確保および自己資本の充実を財務方針としております。事業成長に向けた投資資金需要に対しては、投資の内容、手許流動性の水準、資本コスト、資金調達環境、自己資本比率などを総合的に勘案し、長期的な企業価値向上に最も資する方法により対応しております。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

当社が締結している契約等は次のとおりであります。

(1) 技術供与契約

該当事項はありません。

(2) 技術導入契約

該当事項はありません。

(3) 販売の提携

提携先	契約年月日	提携内容	契約期間
㈱大川原製作所	1980年3月3日 1981年12月21日 (契約更改) 1985年7月29日 (契約更改)	当社機械装置及び関連機器の製造及び国内販売に関する事項(業務提携契約)	1980年3月3日から 1990年3月2日まで (自動更新中)

(4) 製造委委託契約

契約会社名	契約年月日	契約内容	契約期間
DFE Pharma	2017年3月15日	当社製品「ダイラクトーズ」のOEM（製造委委託）契約	2017年3月1日から 製造装置引渡し日を起算とする10年間

## 5 【研究開発活動】

当社グループは医薬品・食品業界のニーズを先取りした技術開発型企業として研究開発を進めています。とくに、造粒およびコーティング技術をキーテクノロジーとして、独創的な機械装置および医薬品添加剤の開発を主軸とし、世界中の人々の医療と健康の未来に貢献しています。機械装置と医薬品添加剤技術を融合した製剤技術の研究開発は、豊かな生活・食の安全・安心を支える技術として貢献しております。また、粉碎技術に基づく機械装置は他の産業分野へ展開されています。

当連結会計年度における各部門別の研究開発の取り組み状況及び成果はつぎのとおりであります。なお、当連結会計年度における研究開発費の総額は、8億32百万円であり、セグメントの内訳は、機械部門に係るものが6億6百万円、化成品部門に係るものが2億25百万円であります。

### 1. 機械開発 対象セグメント：機械部門

- ① 製剤工程の連続プロセスを構成する製剤装置の開発
- ② 多色印刷を可能にしたインクジェット式錠剤印刷装置の開発
- ③ 各種電磁波を用いた工程分析技術（PAT: Process Analytical Technology）の開発
- ④ リチウムイオン電池に使われる正極材、負極材の高性能化技術の開発

### 2. 添加剤開発 対象セグメント：化成品部門

- ① 製剤工程の連続プロセスに用いられる直接打錠用賦形剤の開発
- ② 錠剤印刷用各種インク（米国GMP対応）の開発
- ③ 口腔内崩壊錠用球形粒子の生産技術の開発
- ④ 中国、インドの医薬品業界向けGMP対応技術の開発

### 3. 品質保持剤開発 対象セグメント：化成品部門

- ① 欧米規格に対応した水分活性測定器の開発
- ② 品質、生産性向上を目指した新規包装材料の開発

また、研究開発の成果としまして当連結会計年度に登録になりました特許は国内4件、外国1件であり、特許出願数は国内9件、外国1件であります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループの当連結会計年度における重要な設備投資はありません。

#### 2 【主要な設備の状況】

1. 当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

(2019年2月28日現在)

事業所 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額							従業員数 (名)	
			建物 (千円)	構築物 (千円)	土地面積 (㎡)	土地簿価 (千円)	機械及び 装置 (千円)	車両運搬具 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)		合計 (千円)
浜松工場 (静岡県浜松市 北区)	化成品 部門	化成品 生産設備	385,876	12,106	26,246.84	900,266	115,333	8	16,849	1,430,440	32 (16)
技術開発研究所 (静岡県浜松市 北区)	機械・ 化成品 部門	化成品・ 機械研究 設備	65,576	1,290	—	—	188,626	—	44,691	300,184	52 (6)
本社 (東京都新宿区)	全社統括 業務	統括業務 施設	103,585	—	—	—	613	1,337	24,383	129,920	90 (13)
大阪事業所 (大阪府吹田市)	機械・ 化成品 部門	機械・ 化成品 営業施設	2,580	—	—	—	—	—	5,782	8,363	31 (4)
厚生施設 (静岡県浜松市 北区他)	—	厚生施設	17,258	234	3,374.62	167,365	—	—	—	184,857	—

- (注) 1. 浜松工場の土地は、技術開発研究所と同一敷地内にあり、技術開発研究所の土地を含めて記載しております。  
 2. 記載の金額は、有形固定資産の金額であり、建設仮勘定は含んでおりません。  
 3. 従業員数の( )は、外書きで臨時従業員数を示しております。

##### (2) 国内子会社

(2019年2月28日現在)

事業所 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物 (千円)	土地面積 (㎡)	土地簿価 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)		合計 (千円)
フロイント・ ターボ機 (神奈川県横須賀市 内川)	機械部門	粉粒体機 械装置の 開発設備	76,816	2,347.94	151,521	44,691	6,848	279,877	43 (14)

(注) 従業員数の( )は、外書きで臨時従業員数を示しております。

##### (3) 在外子会社

(2019年2月28日現在)

事業所 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物 (千円)	土地面積 (㎡)	土地簿価 (千円)	機械装置 及び運搬具 (千円)	工具、器具 及び備品 (千円)		合計 (千円)
FREUND-VECTOR CORPORATION (米国)	機械部門	機械装置	450,372	15,380.00	20,522	47,898	267,109	785,902	118
FREUND-VECTOR CORPORATION Milan Laboratory (イタリア)	機械部門	機械 試験設備	47,059	—	—	—	57,391	104,451	3

2. 主要な賃借ないしはリース設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	従業員数 (名)	土地面積 (㎡)	年間リース料 (千円)
浜松工場 (静岡県浜松市北区)	化成品部門	機械装置(リース)	32 (16)	—	11,029
技術開発研究所 (静岡県浜松市北区)	機械・化成品部門	機械装置(リース)	52 (6)	—	10,150

(注) 従業員数の( )は、外書きで臨時従業員数を示しております。

(2) 在外子会社

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	従業員数 (名)	土地面積 (㎡)	年間賃借及びリ ース料 (千円)
FREUND-VECTOR CORPORATION (米国)	機械部門	機械装置(リース)	118	—	536
FREUND-VECTOR CORPORATION Milan Laboratory (イタリア)	機械部門	機械装置(リース)	3	—	3,929

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、業界動向や投資効率等を総合的に勘案して、連結会社各社が個別に策定しております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画につきまして、特記すべきものはありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

##### ② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (2019年5月31日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,400,000	18,400,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	18,400,000	18,400,000	—	—

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### ② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### ③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。



## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2016年3月1日 (注)	9,200,000	18,400,000	—	1,035,600	—	1,282,890

(注) 株式分割(1:2)によるものであります。

## (5) 【所有者別状況】

2019年2月28日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	12	26	97	46	9	13,579	13,769	—
所有株式数 (単元)	—	30,312	604	30,822	10,180	50	111,940	183,908	9,200
所有株式数 の割合(%)	—	16.5	0.3	16.8	5.5	0.1	60.8	100.0	—

(注) 自己株式1,655,480株は、「個人その他」に16,554単元及び「単元未満株式の状況」に80株を含めて記載しております。

## (6) 【大株主の状況】

2019年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
㈱伏島揺光社	東京都新宿区西新宿 6-25-13	1,648	9.84
伏島 靖豊	東京都豊島区	1,300	7.77
㈱三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内 2-7-1	836	4.99
㈱三井住友銀行	東京都千代田区丸の内 1-1-2	744	4.44
㈱大川原製作所	静岡県榛原郡吉田町神戸1235	673	4.02
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT (常任代理人シティバンク、エヌ・エイ)	BAHNHOFSTRASSE 45, 8001 ZURICH, SWITZERLAND (東京都新宿区 6-27-30)	557	3.33
フロント従業員持株会	東京都新宿区西新宿 6-25-13	416	2.48
㈱静岡銀行 (常任代理人日本マスター トラスト信託銀行)	静岡県静岡市葵区呉服町 1-10 (東京都港区浜松町 2-11-3)	368	2.20
明治安田生命保険相互会社 (常任代理人資産管理サービス 信託銀行)	東京都千代田区丸の内 2-1-1 (東京都中央区晴海 1-8-12)	360	2.15
伏島 巖	東京都文京区	282	1.69
計	—	7,185	42.92

(注) 1 上記のほか自己株式が、1,655千株あります。

2 当事業年度における主要株主の異動は以下のとおりであります。なお、表中の総株主の議決権の数に対する割合は、異動日時点によるものであり、金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号の規定に基づき、主要株主の異動に関する臨時報告書を2018年5月2日に提出しております。

異動年月日	異動のあった 主要株主の氏名		議決権の数 (個)	総株主等の議決権 に対する割合	臨時報告書提出日
2018年4月26日	伏島 靖豊	異動前	18,214	10.57%	2018年5月2日
		異動後	13,214	7.90%	

(注) 1 異動前及び異動後の総株主等の議決権に対する割合は、異動前は2018年2月28日現在の総株主の議決権数(172,360個)に基づき算出しており、異動後は2018年2月28日現在の議決権数から2018年4月26日に当社が取得した自己株式の議決権数(5,000個)を差し引いて算出しております。

2 総株主等の議決権に対する割合は小数点第3位以下を四捨五入しております。

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

2019年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,655,400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,735,400	167,354	—
単元未満株式	普通株式 9,200	—	—
発行済株式総数	18,400,000	—	—
総株主の議決権	—	167,354	—

## ② 【自己株式等】

2019年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
フロイント産業(株)	東京都新宿区西新宿 6—25—13	1,655,400	—	1,655,400	9.00
計	—	1,655,400	—	1,655,400	9.00

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成30年4月25日)での決議状況 (取得期間平成30年4月26日～平成30年4月26日)	550,000	629,200
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	500,000	572,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	50,000	57,200
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	9.1	9.1
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	9.1	9.1

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	2	1,844
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 1. 当事業年度における取得自己株式の株式数は、単元未満株式の買取による増加2株であります。  
2. 当期間における取得自己株式には、2019年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他(一)				
保有自己株式数	1,655,480	—	1,655,480	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

#### (1) 基本方針

当社は、株主価値の極大化を経営の最重要課題と位置付けており、その成果については、事業環境の変化に対し機動的かつ適切に対処できるよう企業体質の強化を図りつつ、株主の皆様への利益配分を図りたいと考えております。具体的には、業績に応じた成果配分を行うことを基本として年間の連結配当性向30%を目標とし、経営基盤の強化や将来の事業拡大を見据えた内部留保の充実等を総合的に勘案しつつ、継続して安定配当を行う方針であります。

毎事業年度における剰余金の配当の回数については、期末配当の年1回を基本的な方針としております。

剰余金の配当制度としては中間配当と期末配当があり、その決定機関は、中間配当につきましては取締役会、期末配当につきましては株主総会であります。

なお、当社は、「取締役会の決議によって、毎年8月31日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2019年5月30日 定時株主総会	334	20

#### (2) 当期の配当金

当期の配当金につきましては、1株につき20円の配当といたしました。この結果、当期の連結配当性向は39.9%となりました。

#### (3) 内部留保について

当期の内部留保資金につきましては、将来の事業展開に向けての経営体質強化や事業領域拡大に向けた投資などに有効に活用してまいります。

### 4 【株価の推移】

#### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
決算年月	2015年2月	2016年2月	2017年2月	2018年2月	2019年2月
最高(円)	1,532	2,366 ※1,159	1,875	1,709	1,192
最低(円)	925	1,071 ※947	980	966	724

(注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

2. ※印は、株式分割(2016年3月1日、1株→2株)による権利落後の最高・最低株価を示しております。

#### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2018年9月	10月	11月	12月	2019年1月	2月
最高(円)	965	1,004	891	885	909	902
最低(円)	890	800	805	724	780	850

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

## 5 【役員 の 状 況】

男性 8 名 女性 1 名 （役員のうち女性の比率11.1%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	全社統轄	伏島 巖	1969年12月13日生	1997年11月 2008年5月 2010年3月 2012年3月 2012年9月 2013年3月 2014年4月	当社入社 当社取締役 当社常務取締役 代表取締役社長(現任) フロイント化成㈱代表取締役社長 FREUND-VECTOR CORPORATION Chairman and CEO(現任) フロイント・ターボ㈱代表取締役 会長(現任)	(注) 3	282
常務取締役	情報開示担当 IR担当 コンプライア ンス担当 危機管理責任 者	白鳥 則生	1957年4月5日生	2001年11月 2005年5月 2010年7月 2012年9月 2016年5月	当社入社 当社取締役 フロイント・ターボ㈱代表取締役 専務 フロイント化成㈱代表取締役専務 当社常務取締役(現任)	(注) 3	16
取締役		真鍋 朝彦	1963年10月3日生	1991年10月 2007年5月 2010年7月 2013年7月 2015年5月 2015年6月	太田昭和監査法人(現EY新日本有限 責任監査法人)入所 新日本有限責任監査法人(現EY新日 本有限責任監査法人)社員 税理士法人高野総合会計事務所パ ートナー 税理士法人高野総合会計事務所シ ニア・パートナー(現任) 当社取締役(現任) 日本出版販売㈱社外監査役(現任)	(注) 3	—
取締役		中竹 竜二	1973年5月8日生	2001年4月 2006年4月 2008年8月 2010年3月 2014年5月 2015年3月 2015年5月 2015年12月 2016年12月	三菱総合研究所入社 早稲田大学ラグビー蹴球部監督 ㈱セブンフーズ代表取締役(現 任) 公益財団法人日本ラグビーフット ボール協会コーチングディレク ター(現任) ㈱TEAMBOX代表取締役(現任) ㈱ジンテック社外取締役(現任) 当社取締役(現任) ㈱クラウドワークス社外取締役 ㈱クラウドワークス顧問(現任)	(注) 3	—
取締役		今田 修	1955年11月14日生	1980年4月 1988年11月 2000年9月 2002年6月 2015年2月 2018年5月	㈱日立製作所入所 大和証券㈱入社 UBSウォーバーク証券会社入社 UFJキャピタル・マーケット証券㈱ (現三菱UFJモルガン・スタンレー 証券㈱) 入社 ㈱エックスオー・マネジメント設 立 代表取締役(現任) 当社取締役(現任)	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		平野 栄	1957年5月28日生	1980年4月 出光興産㈱入社 2007年4月 同社経理部次長 2008年7月 出光ルブリカンツアメリカ社長 2011年6月 出光興産㈱IR・広報室長 2012年4月 同社広報CSR室長 2015年6月 同社常勤監査役 2019年5月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	—
監査役		佐藤 光昭	1954年5月10日生	1979年4月 出光興産㈱入社 2011年7月 同社 経理部主幹部員 2014年1月 Global OLED Technology LLC 出向 副社長 CFO 2016年10月 Nicolai Bergmann㈱ CFO(現任) 2017年5月 当社監査役(現任)	(注)5	—
監査役		菅原 正則	1953年12月2日生	1977年4月 ㈱保谷クリスタル(現HOYA㈱)入社 1999年6月 HOYAクリスタルショップ㈱(現HOYA ㈱)取締役管理部長 2001年6月 HOYAクリスタル㈱(現HOYA㈱)常勤 監査役 2011年2月 アルテック㈱ 常勤監査役 2016年6月 ㈱MS-Japan 社外取締役 (常勤監査等委員) (現任) 2017年5月 当社監査役(現任)	(注)5	—
監査役		泉本 小夜子	1953年7月8日生	1976年3月 等松・青木監査法人(現有限責任監 査法人トーマツ)入所 1995年7月 監査法人トーマツパートナー 2007年1月 金融庁企業会計審議会 委員 2010年7月 日本公認会計士協会 本部常務理事 2015年1月 総務省情報通信審議会 委員(現任) 2016年8月 泉本公認会計士事務所代表(現任) 2017年4月 総務省情報公開・個人情報保護審 査会委員(現任) 2017年5月 当社監査役(現任) 2017年6月 第一三共株式会社 社外監査役(現 任) 2017年6月 株式会社日立物流 社外取締役(現 任)	(注)5	—
計						299

- (注) 1. 取締役 真鍋朝彦、中竹竜二及び今田修は、社外取締役であります。  
2. 常勤監査役 平野栄、監査役 佐藤光昭、菅原正則及び泉本小夜子は、社外監査役であります。  
3. 2019年5月30日開催の定時株主総会の終結の時から1年間  
4. 2019年5月30日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
5. 2017年5月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

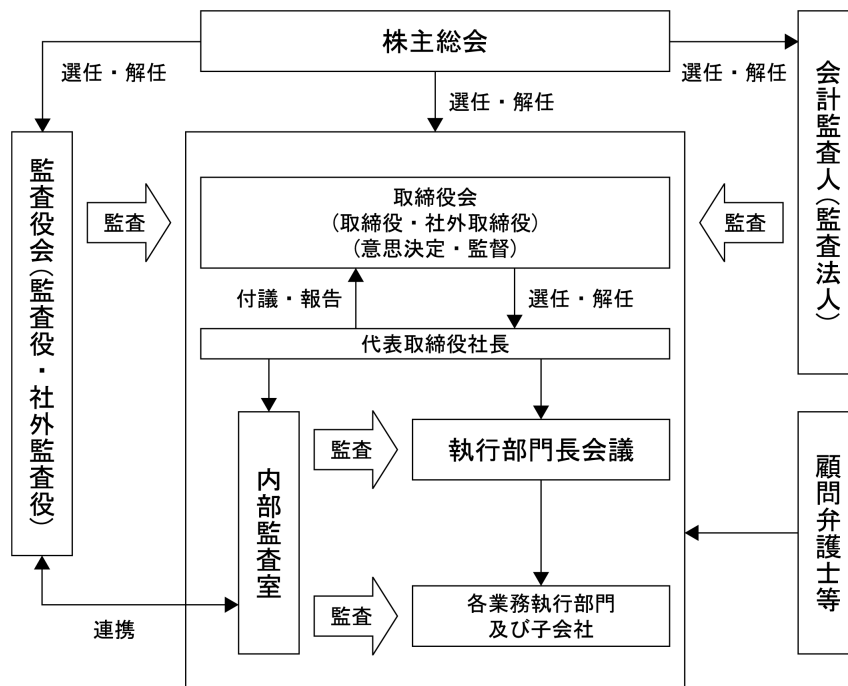
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は企業理念「創造力で未来を拓く(登録商標)」のもと、経営ビジョンである“世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくこと”の具現化に向け事業活動を行っています。公正で適正な競争を通じて、お客さまの役に立つ製品やサービスを提供し、適正な利益を追及するプロセスを通して企業価値を高めていくことが重要であると考えています。当社は、コーポレート・ガバナンスをそのための重要な基盤として認識し、グループ全体に関わる重要な業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督する取締役会と、取締役会から独立し、取締役の職務の執行を監査する監査役会制度を基礎として、実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制の構築・強化に努めています。

#### 1. 企業統治の体制

##### ① 企業統治の体制の概要

- ・グループ各社の社長は業務執行管理を統轄し、当社の社長は総監としてグループ各社の社長の機能と統治状況をチェックする体制としております。
- ・当社は監査役会設置会社であり、4名の社外監査役(うち、1名は常勤)が、毎月開催している取締役会等の重要な会議に出席するほか、取締役の業務執行状況を厳正に監査しております。
- ・監査役会の専従スタッフは配置しておりませんが、独立した内部監査室及び管理統轄部門との連携を図っております。
- ・5名の取締役(うち、3名社外取締役)により、合理的かつ効率的に経営の意思決定を行って参ります。なお、当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要図は、以下のとおりであります。



##### ② 企業統治の体制を採用する理由

当社は、価値ある企業として信頼を得るために、株主・投資家などのステークホルダーとの関係を深め、コーポレート・ガバナンス体制を強化・充実することを重要な経営課題の一つと位置づけております。

迅速な経営の意思決定、業務遂行の監視・監督、コンプライアンスの徹底、適切な開示情報体制の構築など、経営の透明性の確保と効率化のために経営体制及び内部統制システムを整備しており、企業価値の最大化に資するものと考え、この体制としております。



### ③ 内部管理体制及びリスク管理体制の整備・運用状況

内部管理体制及びリスク管理体制の充実に向けた最近1年間の取組状況はつぎのとおりです。

イ. 当社は、2006年5月25日開催の取締役会において、決議・制定した業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針を制定しております。また、2016年2月25日開催の取締役会において、同基本方針の一部改定を決議しております。

ロ. 当社では、健全で透明性の高い企業活動を継続するため、各種規程の整備と運用、的確な内部監査の実施に取り組んでおります。

ビジネスリスク以外のリスクについては、各社の管理統轄部門長を危機管理責任者に任命し、グループとしての整合性のとれたリスクマネジメント、内部統制システムの整備に取り組んでおります。

また、「事業等のリスク」に記載のとおり、当社グループの事業は様々なリスクを伴っております。

これらのリスクに対しては、その低減及び回避のための諸施策を実施するほか、日常の管理は社内各部門が分担してあっております。また、リスクが現実のものとなった場合には、経営トップの指揮のもと迅速・適切な対応を図ることを基本としており、対応方針を明確にしております。

### ④ 子会社の業務の適正を確保するための体制整備

当社では、当社の役員等が子会社の取締役または監査役を兼任するほか、定期的に取り締り会他、重要な会議に出席することで、子会社の業務執行状況の監督・監査を行っております。

## 2. 内部監査及び監査役監査

監査役監査については、株主総会で選任された監査役4名（独立役員である社外監査役4名、うち1名は常勤）が監査役会で討議し、承認された監査方針及び計画に基づいて、取締役会、執行部門長会議の他、各種重要会議にも積極的に出席、代表取締役との定例会合を開催し、取締役の職務執行について監査しております。

常勤監査役平野栄氏（2019年5月30日就任）は、財務及び会計に関する知見及び経営全般に優れた見識を有しております。

社外監査役佐藤光昭氏は、長年にわたる経理部門の経験を有しており、財務及び会計に関する豊富な見識を有しております。また社外監査役菅原正則氏は長年にわたる経理部門及び監査業務の経験を有しており、財務及び会計に関する豊富な見識を有しております。社外監査役泉本小夜子氏は、長年にわたる公認会計士の経験と、財務及び会計に関する豊富な見識を有しております。

また、監査役は、会計監査人と四半期ごとに定期会合を持ち、会計監査の結果及び取締役の行為の適法性について確認しております。

内部監査につきましては、社長直轄の内部監査室が当社規程に基づき内部監査を実施しております。また必要に応じ監査役及び会計監査人と連携を図り、監査の実効性を高めることに努めております。

## 3. 社外取締役及び社外監査役の状況

当社は社外取締役を3名選任しております。社外取締役は、独立した立場で当社の経営に対する適切な意見・助言を行い、監督機能を発揮しております。

社外監査役4名（うち、1名は常勤）は、独立的立場からの経営の監視機能と、各監査役の専門的知識による経営に対する助言及び監査的役割を担っており、独立性が損なわれる属性を有しておらず、一般株主と利益相反するおそれはないと考えております。

当社取締役会では、積極的な意見交換がされており、社外取締役、社外監査役からも中立的で率直な発言をいただいております。また、取締役会は、顧問弁護士、会計士等からの意見を踏まえて審議しております。

当社と社外取締役3名及び社外監査役4名との間に特記すべき人的関係、資本的関係又は取引関係その他の特別な利害関係はありません。

社外取締役である真鍋朝彦氏は、公認会計士の資格を有しており、かつ当社事業に関する知見を有し、経営全般に優れた見識を兼ね備えておりますことから、経営監督能力を十分に発揮できると判断し、社外取締役として選任いたしました。同氏が当社社外取締役就任前に所属していたEY新日本有限責任監査法人と当社は監査契約を締結しておりますが、他に人的関係、資本取引関係又は取引関係その他の利害関係はありません。同氏がシニア・パートナーを務める税理士法人高野総合会計事務所と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。また同氏が社外監査役を務める日本出版販売(株)及び出版共同流通(株)と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役である中竹竜二氏は、経営全般に優れた見識を兼ね備えており、経営監督能力を十分に発揮できると判断したことから、社外取締役として選任いたしました。同氏が代表取締役を務める(株)TEAMBOX及び(株)セブンフーズと当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。また同氏が社外取締役を務める(株)ジンテックと当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役である今田修氏は、経営全般に優れた見識を兼ね備えており、経営監督能力を十分に発揮できると判断したことから、社外取締役として選任いたしました。同氏が代表取締役を務める(株)エクスオー・マネジメントと当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役である佐藤光昭氏がCFOを務めるNicolai Bergman(株)と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役である菅原正則氏が社外取締役を務める(株)MS-Japanと当社との間には、人材紹介に関する取引関係がありますが、人的関係、資本的関係その他の利害関係はありません。

社外監査役である泉本小夜子氏が社外監査役を務める第一三共(株)と当社との間に売買取引関係があります。同氏が社外取締役を務める(株)日立物流と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

上記のほかに、当社の社外監査役と当社との間には、人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、次のとおり「社外役員の独立性に関する基準」を定めており、社外取締役3名、社外監査役4名の全員を、東京証券取引所に対して独立役員として届出ております。

#### 「社外役員の独立性に関する基準」

- (1) ① 当社又はその子会社の業務執行取締役、執行役員又は支配人その他の使用人(以下「業務執行者」という。)ではなく、かつ、その就任の前10年間に於いて当社又はその子会社の業務執行者ではなかったこと。
- ② その就任の前10年内のいずれかの時に於いて当社又はその子会社の取締役、会計参与又は監査役であったことがある者(業務執行者であったことがあるものを除く。)に於いては、当該取締役、会計参与又は監査役への就任前10年間に於いて当社又はその子会社の業務執行者ではなかったこと。
- (2) ① 当社若しくはその主要会社(注1)を主要な取引先(注2)とする者又はその業務執行者ではなく、また、過去3年間に於いてその業務執行者ではなかったこと。
- ② 当社若しくはその主要会社の主要な取引先又はその業務執行者ではなく、また、過去3年間に於いてその業務執行者ではなかったこと。
- (3) コンサルタント、会計専門家又は法律専門家については、当社から役員報酬以外に過去3年間の平均で年間100万円を超える金銭その他の財産を得ている者ではなく、当社を主要な取引先(注3)とする会計・法律事務所等の社員等ではないこと。
- (4) 当社若しくはその子会社の取締役、執行役員又は上記2、3の要件に基づき当社からの独立性が確保されていないと判断する者の配偶者又は二親等内の親族ではないこと。
- (5) 当社の現在の主要株主(注4)又はその業務執行者ではないこと。
- (6) 当社又はその子会社の監査法人又は当該監査法人の社員等ではなく、過去3年間、当該社員等として当社又はその子会社の監査業務を担当したことがないこと。

(注1) 主要会社(FREUND-VECTOR CORPORATION、フロイント・ターボ株式会社)

(注2) 年間連結売上高の2%以上を基準に判定

(注3) 年間売上高の2%以上を基準に判定

(注4) 総議決権の10%以上を保有する株主

#### 4. 役員の報酬等

##### ① 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	
取締役 (社外取締役を除く)	79	53	26	3
監査役 (社外監査役を除く)	10	9	0	1
社外役員	18	15	2	6

##### ② 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

##### ③ 使用人兼務役員の使用人のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の 員数(名)	内容
14	1	従業員部分としての給与等である。

##### ④ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社の役員の報酬等については、株主総会の決議により承認いただいた報酬枠の範囲内で決定しております。取締役の月額報酬は、各取締役の役割と責任を基準に、業績状況や他社水準を勘案し、取締役会において決議し決定しております。賞与については、当該年度の会社業績を勘案して総額を決定し、個人別の配分は各取締役の役割と責任を基準に取締役会にて決議し決定しております。監査役報酬は、月額報酬を基本としつつ、賞与と合わせて、監査役会の協議により決定しております。

5. 株式の保有状況

① 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 14銘柄

貸借対照表計上額の合計額 326百万円

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

(特定投資株式)

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)静岡銀行	65,000	70	金融機関との安定的な取引維持
東和薬品(株)	6,265	43	円滑な取引関係の維持
(株)ブルボン	12,451	42	円滑な取引関係の維持
わかもと製薬(株)	21,765	6	円滑な取引関係の維持
ダイト(株)	1,100	3	円滑な取引関係の維持

当事業年度

(特定投資株式)

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)静岡銀行	65,000	57	金融機関との安定的な取引維持
東和薬品(株)	6,369	55	円滑な取引関係の維持
(株)ブルボン	12,797	23	円滑な取引関係の維持
わかもと製薬(株)	24,021	6	円滑な取引関係の維持
ダイト(株)	1,100	3	円滑な取引関係の維持

③ 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額  
該当事項はありません。

## 6. 会計監査の状況

業務を遂行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名及び継続監査年数

指定有限責任社員 業務執行社員 野本 博之 EY新日本有限責任監査法人 2年

指定有限責任社員 業務執行社員 宇田川 聡 EY新日本有限責任監査法人 2年

(注) 上記監査法人は従来より自主的に業務執行社員について、一定期間を超えて継続的に関与することのないよう措置をとっております。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 2名

その他 13名

## 7. コーポレート・ガバナンスの充実に向けた最近1年間の取組状況

- ・監査法人からの指摘事項については、会計上の指摘事項のほか、内部統制上の指摘事項についても速やかに直近の取締役会へ漏れなく報告され、その解決状況については決着するまでフォローする体制としております。
- ・株主や投資家の方々に対しては、タイムリーかつ分かり易い年次報告書の発刊やホームページにおいても情報開示しております。
- ・年2回、決算説明会を定期開催し、その概要についてもタイムリーにホームページに掲載しております。

## 8. 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役(業務執行取締役等を除く)及び監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、損害賠償責任を限定する契約を締結できる旨定款に定めております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。

なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役(業務執行取締役等を除く)または監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

## 9. 取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

## 10. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数を持って行う旨及び選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

## 11. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## 12. 中間配当の決定機関

当社は、取締役会の決議により中間配当を実施することができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

## 13. 自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定に従い、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、機動的に自己の株式の取得を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	31	—	31	—
連結子会社	—	—	—	—
計	31	—	31	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社は、監査公認会計士等が独立した立場において公正かつ誠実に監査証明業務を行えるよう、監査日数、業務の特性、規模等を勘案し、監査報酬を適切に決定することとしております。

## 第5 【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年3月1日から2019年2月28日まで)の連結財務諸表及び第55期事業年度(2018年3月1日から2019年2月28日まで)の財務諸表についてEY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。なお、従来、当社が監査証明を受けている新日本有限責任監査法人は、2018年7月1日に名称を変更し、EY新日本有限責任監査法人となりました。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下のとおり連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,568,050	5,534,431
受取手形及び売掛金	※1 4,337,779	※1 4,172,348
電子記録債権	113,748	160,222
商品及び製品	※1 263,127	※1 414,397
仕掛品	※1 2,046,615	※1 1,053,685
原材料及び貯蔵品	※1 876,175	※1 1,007,294
前払費用	110,520	138,074
繰延税金資産	175,959	170,734
その他	303,293	239,599
貸倒引当金	△10,737	△8,869
流動資産合計	14,784,533	12,881,919
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,906,829	2,982,319
減価償却累計額	△1,719,025	△1,819,365
建物及び構築物（純額）	※1 1,187,803	※1 1,162,954
機械装置及び運搬具	1,502,860	1,759,916
減価償却累計額	△1,114,413	△1,253,108
機械装置及び運搬具（純額）	388,447	506,807
土地	※1 1,239,027	※1 1,239,674
建設仮勘定	232,897	431,499
その他	1,230,493	1,419,431
減価償却累計額	△908,237	△991,297
その他（純額）	322,255	428,134
有形固定資産合計	3,370,431	3,769,070
無形固定資産		
のれん	92,104	-
ソフトウェア	9,914	15,912
その他	436	436
無形固定資産合計	102,455	16,349
投資その他の資産		
投資有価証券	368,922	351,259
事業保険積立金	276,296	279,209
繰延税金資産	20,632	7,032
退職給付に係る資産	1,550	1,244
その他	206,126	164,620
貸倒引当金	△5,400	△5,400
投資その他の資産合計	868,127	797,967
固定資産合計	4,341,015	4,583,387
資産合計	19,125,548	17,465,307



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,931,872	1,587,769
電子記録債務	892,011	582,051
リース債務	6,261	3,954
未払法人税等	356,267	151,746
未払消費税等	48,562	155,314
未払費用	350,181	362,769
前受金	1,498,799	666,802
賞与引当金	210,727	212,735
役員賞与引当金	54,300	30,000
その他	215,927	185,615
流動負債合計	5,564,911	3,938,759
固定負債		
長期末払金	42,906	44,064
リース債務	9,196	5,241
退職給付に係る負債	200,056	162,460
資産除去債務	34,977	35,131
その他	31,284	28,996
固定負債合計	318,421	275,895
負債合計	5,883,333	4,214,655
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,035,600	1,035,600
資本剰余金	1,289,513	1,289,513
利益剰余金	11,419,492	11,918,177
自己株式	△201,361	△773,363
株主資本合計	13,543,245	13,469,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51,132	35,459
為替換算調整勘定	△332,254	△265,653
退職給付に係る調整累計額	△19,907	10,917
その他の包括利益累計額合計	△301,029	△219,276
純資産合計	13,242,215	13,250,651
負債純資産合計	19,125,548	17,465,307

## ② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
売上高	19,801,447	18,408,237
売上原価	12,985,225	12,220,111
売上総利益	6,816,221	6,188,126
販売費及び一般管理費	※1, ※2 4,845,025	※1, ※2 4,964,993
営業利益	1,971,195	1,223,132
営業外収益		
受取利息	3,437	5,436
受取配当金	5,876	64,922
受取技術料	12,035	6,474
受取賃貸料	2,107	1,393
為替差益	—	2,423
その他	12,236	24,880
営業外収益合計	35,692	105,530
営業外費用		
支払利息	1,630	914
為替差損	4,632	—
その他	6,604	1,408
営業外費用合計	12,866	2,322
経常利益	1,994,022	1,326,340
特別利益		
固定資産売却益	—	※3 662
投資有価証券償還益	101,621	23,874
特別利益合計	101,621	24,537
特別損失		
固定資産除却損	※4 336	※4 2,297
減損損失	—	※6 91,520
固定資産売却損	※5 2,125	※5 1,422
特別損失合計	2,461	95,239
税金等調整前当期純利益	2,093,181	1,255,638
法人税、住民税及び事業税	557,900	400,395
法人税等調整額	57,609	11,668
法人税等合計	615,510	412,063
当期純利益	1,477,671	843,575
親会社株主に帰属する当期純利益	1,477,671	843,575

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
当期純利益	1,477,671	843,575
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,991	△15,673
為替換算調整勘定	△99,218	66,601
退職給付に係る調整額	5,303	30,824
その他の包括利益合計	※1 △75,923	※1 81,752
包括利益	1,401,747	925,328
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,401,747	925,328

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,035,600	1,289,513	10,286,711	△201,361	12,410,463
当期変動額					
剰余金の配当			△344,890		△344,890
親会社株主に帰属する当期純利益			1,477,671		1,477,671
自己株式の取得					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	1,132,781	—	1,132,781
当期末残高	1,035,600	1,289,513	11,419,492	△201,361	13,543,245

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	33,141	△233,036	△25,210	△225,105	12,185,358
当期変動額					
剰余金の配当					△344,890
親会社株主に帰属する当期純利益					1,477,671
自己株式の取得					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	17,991	△99,218	5,303	△75,923	△75,923
当期変動額合計	17,991	△99,218	5,303	△75,923	1,056,857
当期末残高	51,132	△332,254	△19,907	△301,029	13,242,215

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,035,600	1,289,513	11,419,492	△201,361	13,543,245
当期変動額					
剰余金の配当			△344,890		△344,890
親会社株主に帰属する当期純利益			843,575		843,575
自己株式の取得				△572,001	△572,001
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	498,684	△572,001	△73,316
当期末残高	1,035,600	1,289,513	11,918,177	△773,363	13,469,928

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	51,132	△332,254	△19,907	△301,029	13,242,215
当期変動額					
剰余金の配当					△344,890
親会社株主に帰属する当期純利益					843,575
自己株式の取得					△572,001
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△15,673	66,601	30,824	81,752	81,752
当期変動額合計	△15,673	66,601	30,824	81,752	8,436
当期末残高	35,459	△265,653	10,917	△219,276	13,250,651

## ④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,093,181	1,255,638
減価償却費	344,965	344,822
減損損失	—	91,520
のれん償却額	4,004	24,027
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△49,194	1,593
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△31,100	△24,300
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2,229	△2,209
受取利息及び受取配当金	△9,313	△70,358
支払利息	1,630	914
為替差損益 (△は益)	8,353	△3,767
有形固定資産売却損益 (△は益)	2,125	759
投資有価証券償還損益 (△は益)	△101,621	△23,874
有形固定資産除却損	336	2,297
売上債権の増減額 (△は増加)	△66,897	138,522
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△415,602	615,597
その他の資産の増減額 (△は増加)	177,256	103,788
仕入債務の増減額 (△は減少)	△152,954	△700,493
前受金の増減額 (△は減少)	△315,141	△843,139
その他の負債の増減額 (△は減少)	△210,283	65,368
その他	152	△8,157
小計	1,277,668	968,548
利息及び配当金の受取額	9,313	70,358
利息の支払額	△1,630	△914
保険金の受取額	—	8,312
法人税等の還付額	2,801	—
法人税等の支払額	△694,105	△610,406
営業活動によるキャッシュ・フロー	594,047	435,898
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△592,523	△569,687
有形固定資産の売却による収入	5,746	662
有形固定資産の除却による支出	△136	△112
無形固定資産の取得による支出	△1,370	△14,497
投資有価証券の取得による支出	△2,229	△4,271
投資有価証券の償還による収入	101,621	23,874
保険積立金の積立による支出	△2,913	△2,913
差入保証金の差入による支出	△1,678	△580
差入保証金の回収による収入	10	1,185
出資金の回収による収入	75	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△493,399	△566,329

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△572,001
リース債務の返済による支出	△48,736	△5,847
配当金の支払額	△343,815	△343,872
短期借入金の返済による支出	△106,535	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△499,086	△921,721
現金及び現金同等物に係る換算差額	△33,077	18,533
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△431,516	△1,033,619
現金及び現金同等物の期首残高	6,982,822	6,568,050
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	16,744	—
現金及び現金同等物の期末残高	※1 6,568,050	※1 5,534,431

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 2社

・国内子会社 1社  
フロイント・ターボ(株)

・在外子会社 1社

FREUND-VECTOR CORPORATION

### 2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

### 3. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

・その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定する方法)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② デリバティブ

時価法を採用しております。

③ たな卸資産

(当社及び国内連結子会社)

(1) 商品及び原材料

主として総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 製品及び仕掛品

機械部門

個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

化成品部門

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

(在外連結子会社)

先入先出法による低価法を採用しております。



(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除く)

(当社及び国内連結子会社)

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

(在外連結子会社)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 5年～47年

機械装置及び運搬具 2年～15年

② 無形固定資産(リース資産を除く)

(当社及び国内連結子会社)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(在外連結子会社)

定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

③ 役員賞与引当金

役員の賞与の支給に備えるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法にて費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしております。

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

ロ その他工事  
工事完成基準

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外連結子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(7) のれんの償却方法および償却期間

のれんの償却については、その効果の発現する期間にわたって均等償却を行うこととしております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産及びこれに対応する債務は、次のとおりであります。

担保に供している資産

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
受取手形及び売掛金	595,187千円	661,290千円
商品及び製品	59,607	84,129
仕掛品	283,219	434,828
原材料及び貯蔵品	370,051	514,331
建物	386,446	374,510
土地	1,003,028	1,003,028
計	2,697,540	3,072,120

上記に対応する債務

上記の担保に供している資産に対応する債務はありません。

## (連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
給与手当	1,294,906千円	1,346,394千円
賞与引当金繰入額	100,845	120,882
役員賞与引当金繰入額	54,300	30,000
退職給付費用	51,706	52,245
減価償却費	172,288	143,775
研究開発費	862,941	832,327

※2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
	862,941千円	832,327千円

※3 固定資産売却益は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
車両運搬具	一千円	662千円
計	—	662

※4 固定資産除却損は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
建物附属設備	266千円	945千円
機械装置	25	158
工具、器具及び備品	44	1,194
計	336	2,297

※5 固定資産売却損は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
機械装置	一千円	1,422千円
工具、器具及び備品	2,125	—
計	2,125	1,422

## ※6 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

### (1) 減損損失を認識した主な資産の概要

場所	用途	種類	金額
フロイント・ターボ株式会社 西宮北センター (兵庫県西宮市)	機械セグメント事業	建物及び構築物	13,461千円
		機械装置及び運搬具	3,073千円
		建設仮勘定	4,904千円
		ソフトウェア	732千円
		のれん	68,076千円
		その他有形固定資産	1,271千円
合計			91,520千円

### (2) 減損損失を認識するに至った経緯

当社連結子会社であるフロイント・ターボ株式会社が前期に吸収合併した旧アキラ機工株式会社の事業において、中国市場などの停滞により、株式取得時に想定していた計画を下回って推移していることから、上記資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

### (3) 資産のグルーピング方法

当社グループは、事業の区分をもとに概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位にて資産のグルーピングを行っております。

### (4) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は使用価値を採用しておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、使用価値を零として評価しております。また、割引前将来キャッシュ・フローがマイナスであるため、割引率の記載を省略しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	25,931千円	△22,590千円
組替調整額	—	—
税効果調整前	25,931	△22,590
税効果額	△7,940	6,917
その他有価証券評価差額金	17,991	△15,673
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△99,218	66,601
組替調整額	—	—
為替換算調整勘定	△99,218	66,601
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	4,780	41,792
組替調整額	2,863	2,635
税効果調整前	7,644	44,428
税効果額	△2,340	△13,604
退職給付に係る調整額	5,303	30,824
その他の包括利益合計	△75,923	81,752

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	18,400,000	—	—	18,400,000
合計	18,400,000	—	—	18,400,000
自己株式				
普通株式	1,155,478	—	—	1,155,478
合計	1,155,478	—	—	1,155,478

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年5月26日 定時株主総会	普通株式	344,890	20	2017年2月28日	2017年5月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月30日 定時株主総会	普通株式	344,890	利益剰余金	20	2018年2月28日	2018年5月31日

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	18,400,000	—	—	18,400,000
合計	18,400,000	—	—	18,400,000
自己株式				
普通株式 (注) 1	1,155,478	500,002	—	1,655,480
合計	1,155,478	500,002	—	1,655,480

(注) 1. 普通株式の自己株式の増加500,002株は、2018年4月25日の取締役会決議による自己株式の取得500,000株及び単元未満株式の買取による増加2株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年5月30日 定時株主総会	普通株式	344,890	20	2018年2月28日	2018年5月31日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年5月30日 定時株主総会	普通株式	334,890	利益剰余金	20	2019年2月28日	2019年5月31日



(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
現金及び預金勘定	6,568,050千円	5,534,431千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	—	—
現金及び現金同等物	6,568,050千円	5,534,431千円

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として生産設備(「機械装置及び運搬具」「その他有形固定資産」)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「3. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
1年内	8,417	17,900
1年超	9,521	24,439
合計	17,939	42,339

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

待機資産の運用については、安全性、流動性を第一に考え、高格付金融機関への預金等を中心に実施しております。資金調達については、金利、調達環境を勘案し、金融市場または資本市場より実施する方針であります。

デリバティブ取引については、在外連結子会社において、外貨建債権債務の為替変動リスクを軽減するために、実需の範囲内で行うこととし、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、取引先の信用リスクに晒されております。また外貨建の営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。投資有価証券は、取引先企業との事業提携・連携強化を目的とする株式であり、これらの株式は市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、電子記録債務は、すべて1年以内の支払期日であります。また、その一部には、原材料等の輸入に伴う外貨建のものがあり、為替変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)

当社では、所定の手続きに従い管理本部が取引を管理し、重要な内容については取締役会等への報告が行われております。連結子会社についても、当社に準じた管理を行っております。

② 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、輸出の大部分を円建てで行うことにより、為替の変動リスク軽減を図っております。また、在外連結子会社において、外貨建債権債務について通常の輸出入取引に伴う為替相場の変動によるリスクを軽減するために、先物為替予約取引を実需の範囲内で行うこととしております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注) 2. 参照)。

前連結会計年度(2018年2月28日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	6,568,050	6,568,050	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,337,779	4,337,779	—
(3) 電子記録債権	113,748	113,748	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	168,221	167,771	△450
資産計	11,187,800	11,187,350	△450
(5) 支払手形及び買掛金	1,931,872	1,931,872	—
(6) 電子記録債務	892,011	892,011	—
負債計	2,823,884	2,823,884	—

当連結会計年度(2019年2月28日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	5,534,431	5,534,431	—
(2) 受取手形及び売掛金	4,172,348	4,172,348	—
(3) 電子記録債権	160,222	160,222	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	147,902	147,252	△650
資産計	10,014,905	10,014,255	△650
(5) 支払手形及び買掛金	1,587,769	1,587,769	—
(6) 電子記録債務	582,051	582,051	—
負債計	2,169,820	2,169,820	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

### 資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、並びに(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

その他有価証券

株式等は主に取引所の価格によっております。また、株式形態のゴルフ会員権は取引所の市場価格が無いいため、連結貸借対照表計上額は帳簿価額により、時価は取引相場によっております。

## 負債

### (5) 支払手形及び買掛金、並びに(6) 電子記録債務

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

### 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
非上場株式	200,700	203,356

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

### 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年2月28日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	6,565,391	—	—	—
受取手形及び売掛金	4,337,779	—	—	—
電子記録債権	113,748	—	—	—
合計	11,016,919	—	—	—

当連結会計年度(2019年2月28日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	5,531,522	—	—	—
受取手形及び売掛金	4,172,348	—	—	—
電子記録債権	160,222	—	—	—
合計	9,864,093	—	—	—

### 4. リース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2018年2月28日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
リース債務	6,261	3,954	2,639	2,209	392
合計	6,261	3,954	2,639	2,209	392

当連結会計年度(2019年2月28日)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
リース債務	3,954	2,639	2,209	392	—
合計	3,954	2,639	2,209	392	—

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2018年2月28日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	166,771	93,072	73,698
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	166,771	93,072	73,698
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,450	1,450	—
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,450	1,450	—
合計		168,221	94,522	73,698

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額200,700千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2019年2月28日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	82,688	29,686	53,001
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	82,688	29,686	53,001
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	65,214	67,108	△1,893
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	65,214	67,108	△1,893
合計		147,902	96,794	51,108

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額203,356千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

### 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、退職一時金制度及び確定拠出型の企業年金制度を採用しております。

国内連結子会社は、確定給付企業年金制度(規約型)を採用しております。また、在外子会社は、確定拠出型の制度として401Kプランを採用しております。

### 2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表(簡便法を適用した制度を除く。)

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
退職給付債務の期首残高	201,812千円	200,056千円
勤務費用	11,269	11,401
利息費用	807	800
数理計算上の差異の発生額	△4,780	△41,792
退職給付の支払額	△9,051	△8,004
退職給付債務の期末残高	200,056	162,460

(2) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
退職給付に係る資産の期首残高	2,257千円	1,550千円
退職給付費用	△6,868	△6,821
制度への拠出額	6,161	6,516
退職給付に係る資産の期末残高	1,550	1,244

- (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
積立型制度の退職給付債務	73,527千円	73,145千円
年金資産	△75,077	△74,390
	△1,550	△1,244
非積立型制度の退職給付債務	200,056	162,460
連結貸借対照表に計上された 負債と資産の純額	198,506	161,216
退職給付に係る負債	200,056	162,460
退職給付に係る資産	△1,550	△1,244
連結貸借対照表に計上された 負債と資産の純額	198,506	161,216

- (注) 簡便法を適用した制度を含みます。

- (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
勤務費用	11,269千円	11,401千円
利息費用	807	800
数理計算上の差異の費用処理額	8,613	8,385
過去勤務費用の費用処理額	△5,750	△5,750
簡便法で計算した退職給付費用	6,868	6,821
確定給付制度に係る 退職給付費用	21,808	21,659

- (5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
過去勤務費用	5,750千円	5,750千円
数理計算上の差異	△13,394	△50,178
合計	△7,644	△44,428

- (6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
未認識過去勤務費用	△16,292千円	△10,542千円
未認識数理計算上の差異	44,974	△5,204
合計	28,682	△15,746

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
一般勘定	100%	100%
合計	100%	100%

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
割引率	0.4%	0.4%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)63,043千円、当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)63,072千円であります。



(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
繰延税金資産		
長期未払金	10,327千円	12,190千円
在外子会社税額控除繰越	13,131	18,692
賞与引当金	61,942	62,550
退職給付に係る負債	61,269	49,738
未払費用	56,336	53,370
減損損失	57,391	97,163
ゴルフ会員権評価損	17,459	17,459
未払事業税	21,197	11,356
たな卸資産評価損	25,438	26,075
投資有価証券評価損	23,714	21,021
繰越欠損金	—	3,339
その他	23,130	21,693
繰延税金資産小計	371,340	394,651
評価性引当額	△110,931	△157,005
繰延税金資産合計	260,409	237,646
繰延税金負債		
在外子会社固定資産加速償却	18,231	19,025
その他有価証券評価差額金	22,566	15,649
株式譲渡認定損	30,627	30,627
その他	22,176	22,073
繰延税金負債合計	93,602	87,376
繰延税金資産純額	166,807	150,270

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
流動資産－繰延税金資産	175,959千円	170,734千円
固定資産－繰延税金資産	20,632	7,032
流動負債－その他	—	—
固定負債－その他	29,784	27,496

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年2月28日)	当連結会計年度 (2019年2月28日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3	1.6
住民税均等割	0.4	0.8
評価性引当額の増減額	△1.6	3.5
研究開発費等による税額控除	△1.6	△2.6
税率変更に伴う影響額	1.1	-
子会社の税率差異	0.3	△1.0
その他	△1.4	△0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.4	32.8

(表示方法の変更)

前連結会計年度において「その他」に含めておりました「子会社の税率差異」は、重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度において「その他」に表示していた△1.1%は、「子会社の税率差異」0.3%、「その他」△1.4%として組替えております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは機械装置、化成品の製造販売を行っており、機械事業、化成品事業を当社グループの報告セグメントとしております。

・各セグメントに属する主な製品・サービス

機械 …………… 粉粒体機械装置、粉粒体機械のプラント工事、計器・部品、合成樹脂の微粉碎受託

化成品 …………… 医薬品添加剤、栄養補助食品、食品品質保持剤、製薬・食品・化学等の開発研究、処方検討等の受託、医薬品の新剤形の開発及びその技術供与

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は営業損失ベースの数値であります。

セグメント間の売上高は、第三者間取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	機械部門	化成品部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,403,065	5,398,381	19,801,447	—	19,801,447
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	14,403,065	5,398,381	19,801,447	—	19,801,447
セグメント利益	1,631,390	801,265	2,432,655	△461,459	1,971,195
セグメント資産	8,769,347	3,626,006	12,395,354	6,730,194	19,125,548
その他の項目					
減価償却費	228,715	101,765	330,481	14,484	344,965
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	305,835	215,862	521,697	2,409	524,107

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△461,459千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
  - (2) セグメント資産の調整額6,730,194千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主なものは親会社の余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券、保険積立金等)及び管理部門に係る資産等であります。
  - (3) 減価償却費の調整額14,484千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産の減価償却費であります。
  - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額2,409千円は、主に報告セグメントに配分していない全社資産にかかるものであります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	機械部門	化成品部門	計		
売上高					
外部顧客への売上高	12,368,175	6,040,062	18,408,237	—	18,408,237
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	12,368,175	6,040,062	18,408,237	—	18,408,237
セグメント利益	737,344	1,024,775	1,762,119	△538,986	1,223,132
セグメント資産	7,687,008	4,131,509	11,818,518	5,646,788	17,465,307
その他の項目					
減価償却費	216,401	122,252	338,653	6,168	344,822
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	431,179	194,543	625,723	1,872	627,595

(注) 1. 調整額の内容は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△538,986千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
  - (2) セグメント資産の調整額5,646,788千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であり、主なものは親会社の余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券、保険積立金等)及び管理部門に係る資産等であります。
  - (3) 減価償却費の調整額6,168千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産の減価償却費であります。
  - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額1,872千円は、主に報告セグメントに配分していない全社資産にかかるものであります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

### 【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

#### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 売上高

(単位：千円)

日本	北米	中南米	欧州	その他	計
13,676,933	1,913,919	1,065,898	1,787,176	1,357,520	19,801,447

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

##### (2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米国	イタリア	計
2,469,489	787,920	113,022	3,370,431

#### 3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

#### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

#### 2. 地域ごとの情報

##### (1) 売上高

(単位：千円)

日本	北米	中南米	欧州	その他	計
12,999,738	1,526,322	1,826,445	410,294	1,645,437	18,408,237

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

##### (2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	米国	イタリア	計
2,781,445	883,173	104,451	3,769,070

#### 3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

「機械」セグメントにおいて、フロイント・ターボ株式会社は当初予定していた収益を見込めなくなったことから、固定資産に係る減損損失23,443千円を計上しております。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

当社の連結子会社であるフロイント・ターボ株式会社が、2018年1月1日付で、アキラ機工株式会社を吸収合併したことに伴い、「機械」セグメントにおいて、のれんが96,108千円、のれんの償却額が4,004千円発生し、未償却残高92,104千円を計上しております。

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

「機械」セグメントにおいて、のれんの償却額24,027千円を計上しております。なお、68,076千円の減損損失を計上しており、未償却残高はありません。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

前連結会計年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

種類	会社等の名称 又は名前	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容又 は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主	伏島 靖豊 (注1)	—	—	当社創業者 名誉会長	(被所有) 直接 10.6%	顧問契約	顧問料の支払 (注2)	30,000	未払金	6,000
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を所有 している 会社	(株) 伏島揺光社 (注3)	東京都 新宿区	45,000	不動産 賃貸業	(被所有) 直接 9.6%	不動産賃貸 借契約の 締結	事務所の 賃借 (注 2)	112,762	未払費用	13,285
							—	—	差入保証金	67,590

- (注) 1. 伏島靖豊氏は当社代表取締役伏島巖の父であります。  
 2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等  
 (1)顧問料は、顧問契約の内容及び、両者協議の上決定しております。  
 (2)事務所の賃借料は、市場価格を勘案し決定しております。  
 3. 当社代表取締役伏島巖及びその近親者が議決権の100.0%を所有しております。  
 4. 取引金額及び期末残高には消費税等が含まれておりません。  
 5. ㈱伏島揺光社は、2017年11月25日付で㈱エフ・アイ・エルより社名変更いたしました。

当連結会計年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

種類	会社等の名称又は名前	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員及びその近親者	伏島 靖豊(注1)	—	—	当社創業者 名誉会長	(被所有) 直接 7.8%	顧問契約	顧問料の支払(注2)	30,000	賞与引当金	6,000
							自己株式の取得(注3)	572,000	—	—
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	(株)伏島揺光社(注4)	東京都新宿区	45,000	不動産賃貸業	(被所有) 直接 9.8%	不動産賃貸借契約の締結	事務所の賃借(注2)	114,961	前払費用	12,523
							—	—	差入保証金	67,172

- (注) 1. 伏島靖豊氏は当社代表取締役伏島巖の父であります。  
 2. 取引条件ないし取引条件の決定方針等  
 (1)顧問料は、顧問契約の内容に基づき、両者協議の上決定しております。  
 (2)事務所の賃借料は、市場価格を勘案し決定しております。  
 3. 2018年4月25日の取締役会決議に基づき、自己株式立会外買付(ToSTNet-3)を利用し、2018年4月25日の株価終値1,144円で取引をおこなっております。  
 4. 当社代表取締役伏島巖及びその近親者が議決権の100.0%を所有しております。  
 5. 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。



## (1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)		当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)	
1株当たり純資産額	767円91銭	1株当たり純資産額	791円34銭
1株当たり当期純利益金額	85円69銭	1株当たり当期純利益金額	50円15銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当連結会計年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,477,671	843,575
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,477,671	843,575
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,244	16,821

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	6,261	3,954	1.45	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	9,196	5,241	1.70	2020年～2023年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	15,457	9,196	—	—

(注) 1. 平均利率については、期末リース債務残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	2,639	2,209	392	—
計	2,639	2,209	392	—

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

## (2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	4,849,505	9,117,076	13,243,297	18,408,237
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	500,337	705,967	792,888	1,255,638
親会社株主に帰属 する四半期(当期) 純利益金額 (千円)	347,315	466,303	523,646	843,575
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	20.37	27.60	31.08	50.15

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	20.37	7.11	3.42	19.11

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年2月28日)	当事業年度 (2019年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,558,102	4,652,230
受取手形	699,713	601,122
売掛金	※2 2,860,354	※2 2,694,785
電子記録債権	113,748	160,222
商品及び製品	203,519	330,267
仕掛品	1,720,348	566,469
原材料及び貯蔵品	481,086	437,368
前渡金	78,003	96,485
前払費用	70,439	87,626
関係会社短期貸付金	—	221,740
繰延税金資産	90,068	82,238
その他	※2 216,100	※2 120,806
流動資産合計	12,091,485	10,051,364
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 590,584	※1 575,075
構築物	14,658	13,630
機械及び装置	271,205	417,408
車両運搬具	2,060	1,345
工具、器具及び備品	96,158	97,321
土地	※1 1,067,631	※1 1,067,631
建設仮勘定	101,318	238,138
有形固定資産合計	2,143,617	2,410,552
無形固定資産		
電話加入権	0	0
ソフトウェア	7,884	12,645
無形固定資産合計	7,884	12,645
投資その他の資産		
投資有価証券	346,793	326,475
関係会社株式	2,329,894	2,329,894
事業保険積立金	276,296	279,209
差入保証金	91,497	90,933
繰延税金資産	17,530	18,477
その他	107,950	67,488
貸倒引当金	△5,400	△5,400
投資その他の資産合計	3,164,564	3,107,078
固定資産合計	5,316,066	5,530,276
資産合計	17,407,551	15,581,641

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年2月28日)	当事業年度 (2019年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形	387,107	203,046
買掛金	※2 1,346,708	※2 1,067,776
電子記録債務	892,011	582,051
リース債務	5,173	2,854
未払金	※2 177,326	※2 171,451
未払費用	107,973	88,987
未払法人税等	316,307	147,062
前受金	1,168,730	211,389
賞与引当金	166,397	174,533
役員賞与引当金	53,000	30,000
その他	27,723	164,520
流動負債合計	4,648,460	2,843,673
固定負債		
リース債務	6,327	3,473
退職給付引当金	171,374	178,207
長期未払金	10,340	10,340
長期預り保証金	1,500	1,500
資産除去債務	34,079	34,234
固定負債合計	223,621	227,754
負債合計	4,872,081	3,071,428
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,035,600	1,035,600
資本剰余金		
資本準備金	1,282,890	1,282,890
資本剰余金合計	1,282,890	1,282,890
利益剰余金		
利益準備金	162,500	162,500
その他利益剰余金		
研究開発積立金	330,000	330,000
別途積立金	7,970,000	9,070,000
繰越利益剰余金	1,904,708	1,367,126
利益剰余金合計	10,367,208	10,929,626
自己株式	△201,361	△773,363
株主資本合計	12,484,337	12,474,753
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	51,132	35,459
評価・換算差額等合計	51,132	35,459
純資産合計	12,535,469	12,510,212
負債純資産合計	17,407,551	15,581,641

## ② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
売上高	※2 14,282,294	※2 13,114,960
売上原価	※2 9,347,989	※2 8,650,846
売上総利益	4,934,305	4,464,114
販売費及び一般管理費	※1 3,205,255	※1 3,283,457
営業利益	1,729,050	1,180,656
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	※2 171,119	※2 49,274
受取技術料	※2 49,630	※2 38,943
受取賃貸料	2,963	2,249
為替差益	-	6,799
雑収入	8,101	※2 14,083
営業外収益合計	231,814	111,351
営業外費用		
支払利息	500	208
為替差損	9,158	-
雑損失	5,289	1,402
営業外費用合計	14,948	1,611
経常利益	1,945,915	1,290,395
特別利益		
投資有価証券償還益	101,621	23,874
特別利益合計	101,621	23,874
特別損失		
固定資産除却損	336	132
特別損失合計	336	132
税引前当期純利益	2,047,200	1,314,138
法人税、住民税及び事業税	518,412	393,029
法人税等調整額	27,445	13,801
法人税等合計	545,858	406,830
当期純利益	1,501,342	907,308

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本							利益剰余金 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
				研究開発 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	1,035,600	1,282,890	1,282,890	162,500	330,000	7,520,000	1,198,256	9,210,756
当期変動額								
剰余金の配当							△344,890	△344,890
当期純利益							1,501,342	1,501,342
別途積立金の積立						450,000	△450,000	-
自己株式の取得								
株主資本以外の項目 の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	450,000	706,452	1,156,452
当期末残高	1,035,600	1,282,890	1,282,890	162,500	330,000	7,970,000	1,904,708	10,367,208

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△201,361	11,327,885	33,141	33,141	11,361,026
当期変動額					
剰余金の配当		△344,890			△344,890
当期純利益		1,501,342			1,501,342
別途積立金の積立		-			-
自己株式の取得	-	-			-
株主資本以外の項目 の 当期変動額(純額)			17,991	17,991	17,991
当期変動額合計	-	1,156,452	17,991	17,991	1,174,443
当期末残高	△201,361	12,484,337	51,132	51,132	12,535,469

当事業年度(自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
					研究開発 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	1,035,600	1,282,890	1,282,890	162,500	330,000	7,970,000	1,904,708	10,367,208
当期変動額								
剰余金の配当							△344,890	△344,890
当期純利益							907,308	907,308
別途積立金の積立						1,100,000	△1,100,000	-
自己株式の取得								
株主資本以外の項目 の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	1,100,000	△537,582	562,417
当期末残高	1,035,600	1,282,890	1,282,890	162,500	330,000	9,070,000	1,367,126	10,929,626

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△201,361	12,484,337	51,132	51,132	12,535,469
当期変動額					
剰余金の配当		△344,890			△344,890
当期純利益		907,308			907,308
別途積立金の積立		-			-
自己株式の取得	△572,001	△572,001			△572,001
株主資本以外の項目 の 当期変動額(純額)			△15,673	△15,673	△15,673
当期変動額合計	△572,001	△9,584	△15,673	△15,673	△25,257
当期末残高	△773,363	12,474,753	35,459	35,459	12,510,212



## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

##### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

##### (2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

#### 2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 商品及び原材料

総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

##### (2) 製品及び仕掛品

機械部門 個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

化成部品部門 総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

#### 3. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	5年～47年
機械装置	2年～12年

##### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

##### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### 4. 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

##### (3) 役員賞与引当金

役員の賞与の支給に備えるため、支給見込額基準に基づき計上しております。

#### (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

##### ① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

##### ② 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法にて費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

#### 5. 収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

イ 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)

ロ その他工事

工事完成基準

#### 6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

##### (2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

※1. 担保に供している資産及びこれに対応する債務は次のとおりであります。

(イ)担保に供している資産

	前事業年度 (2018年2月28日)	当事業年度 (2019年2月28日)
建物	383,543千円	372,001千円
土地	900,266	900,266
計	1,283,810	1,272,268

(ロ)上記に対応する債務

上記の担保に供している資産に対応する債務はありません。

※2. 関係会社項目

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務は区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (2018年2月28日)	当事業年度 (2019年2月28日)
短期金銭債権	22,785千円	22,695千円
短期金銭債務	89,979	35,375

(損益計算書関係)

※1. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度22%、当事業年度24%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度78%、当事業年度76%であります。

販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
役員報酬	75,113千円	78,147千円
給与手当	687,134	720,852
法定福利費	156,161	165,861
賞与	133,122	104,119
賞与引当金繰入額	97,964	108,220
役員賞与引当金繰入額	53,000	30,000
退職給付費用	31,988	32,738
減価償却費	106,530	71,224
研究開発費	721,031	688,177

※2. 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)	当事業年度 (自 2018年3月1日 至 2019年2月28日)
売上高	137,583千円	393,156千円
仕入高等	400,080	243,729
営業取引以外の取引高	203,417	76,395

(有価証券関係)

前事業年度(2018年2月28日)

関係会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式2,329,894千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2019年2月28日)

関係会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式2,329,894千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年2月28日)	当事業年度 (2019年2月28日)
繰延税金資産		
長期未払金	3,166千円	3,166千円
賞与引当金	51,350	53,442
退職給付引当金	52,494	54,567
投資有価証券評価損	23,714	21,021
減損損失	39,372	39,137
たな卸資産評価損	18,306	17,574
未払事業税	17,422	11,356
ゴルフ会員権評価損	17,459	17,459
未払費用	18,252	14,710
その他	19,744	14,318
繰延税金資産小計	261,283	246,754
評価性引当額	△91,448	△91,109
繰延税金資産合計	169,834	155,644
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	22,566	15,649
株式譲渡認定損	30,627	30,627
その他	9,041	8,652
繰延税金負債合計	62,235	54,929
繰延税金資産の純額	107,599	100,715

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年2月28日)	当事業年度 (2019年2月28日)
法定実効税率 (調整)	30.9%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2	
受取配当金の益金不算入等	△2.4	
住民税均等割	0.3	
評価性引当額の増減額	△1.5	
研究開発費等による法人税特別控除	△0.4	
税率変更に伴う影響額	—	
その他	△1.4	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.7	

## ④ 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却 累計額 (千円)
有形固定資産						
建物	590,584	31,879	19	47,369	575,075	1,107,719
構築物	14,658	—	—	1,028	13,630	94,755
機械及び装置	271,205	268,936	1,894	120,838	417,408	658,122
車両運搬具	2,060	—	—	714	1,345	9,858
工具、器具及び備品	96,158	38,355	0	37,192	97,321	406,353
土地	1,067,631	—	—	—	1,067,631	—
建設仮勘定	101,318	483,905	347,085	—	238,138	—
有形固定資産計	2,143,617	823,077	349,000	207,143	2,410,552	2,276,808
無形固定資産						
ソフトウェア	7,884	12,362	—	7,600	12,645	
電話加入権	0	—	—	—	0	
無形固定資産計	7,884	12,362	—	7,600	12,645	

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	5,400	—	—	5,400
賞与引当金	166,397	174,533	166,397	174,533
役員賞与引当金	53,000	30,000	53,000	30,000

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月末日
剰余金の配当の基準日	8月31日 2月末日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取及び買増	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	_____
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行います。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL <a href="http://www.freund.co.jp">http://www.freund.co.jp</a>
株主に対する特典	毎年8月末日現在の株主名簿に記載または記録された1単元(100株)以上を1年以上保有の株主に対し、次のとおり贈呈する。 (1) 保有期間が1年以上3年未満 QUOカード(クオカード)一律1,000円分 (2) 保有期間が3年以上 QUOカード(クオカード)一律2,000円分

(注) 単元未満株式の権利制限

当社定款の定めにより、株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 単元未満株式の買増を請求する権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第54期)(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)2018年5月31日関東財務局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度(第54期)(自 2017年3月1日 至 2018年2月28日)2018年5月31日関東財務局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

(第55期第1四半期)(自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)2018年7月5日関東財務局長に提出。

(第55期第2四半期)(自 2018年6月1日 至 2018年8月31日)2018年10月5日関東財務局長に提出。

(第55期第3四半期)(自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)2019年1月8日関東財務局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

2018年5月31日 関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2

(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年5月30日

フロイント産業株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野本博之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宇田川 聡 印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているフロイント産業株式会社の2018年3月1日から2019年2月28日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

## 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、フロイント産業株式会社及び連結子会社の2019年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、フロイント産業株式会社の2019年2月28日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、フロイント産業株式会社が2019年2月28日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

2019年5月30日

フロイント産業株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 野本博之 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 宇田川 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているフロイント産業株式会社の2018年3月1日から2019年2月28日までの第55期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、フロイント産業株式会社の2019年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 内部統制報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の4第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 2019年5月31日

**【会社名】** フロイント産業株式会社

**【英訳名】** Freund Corporation

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 伏島 巖

**【最高財務責任者の役職氏名】** 常務取締役管理本部長 白鳥 則生

**【本店の所在の場所】** 東京都新宿区西新宿六丁目25番地13号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社代表取締役社長伏島 巖及び常務取締役管理本部長白鳥 則生は、当社及び連結子会社（以下「当社グループ」という）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

当社グループの財務報告に係る内部統制の評価は、当連結会計年度の末日である2019年2月28日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。

当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社グループについて、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社グループを対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している2事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として、売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価対象といたしました。

さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当連結会計年度の末日時点において、当社グループの財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

該当事項はありません。

**【表紙】**

<b>【提出書類】</b>	確認書
<b>【根拠条文】</b>	金融商品取引法第24条の4の2第1項
<b>【提出先】</b>	関東財務局長
<b>【提出日】</b>	2019年5月31日
<b>【会社名】</b>	フロイント産業株式会社
<b>【英訳名】</b>	Freund Corporation
<b>【代表者の役職氏名】</b>	代表取締役社長 伏島 巖
<b>【最高財務責任者の役職氏名】</b>	常務取締役管理本部長 白鳥 則生
<b>【本店の所在の場所】</b>	東京都新宿区西新宿六丁目25番13号
<b>【縦覧に供する場所】</b>	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長伏島 巖及び常務取締役管理本部長白鳥 則生は、当社の第55期(自2018年3月1日 至2019年2月28日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。





